

「伝統的な協同組合」から「新たな協同組合」へ



津別町農業協同組合 代表理事組合長 山下 邦 昭

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、平成31年の輝かしい新年をご家族とともに迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、30年度の当農協の事業運営に深いご理解とご支援頂きましたことに、役員一同深く感謝申し上げます。

一年を振り返り

昨年の当町の農業を振り返りますと、春先の定植播種作業は順調に終える事が出来ましたが、6月にかけての低温と豪雨、その後の高温などにより生育が停滞した事で、主力作物である秋播き小麦につきましてはAランクではあったものの細麦となり、期待に充分応える結果とはなりませんでした。又、春まき小麦にあっても収穫直前の降雨の影響を受け、被害粒の発生など製品歩留まりの低下に繋がり残念な結果になりました。

豆類に於いても同様な傾向が見られますが、本年から管内全体での調整販売を目指すオホーツクビーコンズファクトリーの操業が開始されたことで、製品評価の向上、それに伴う販売価格と産地評価の向上に期待する所であります。又、生食馬鈴薯・人参などの青果物については、食生活の大きな変化や高齢化少子化等により厳しい販売環境になっっている一方で、玉葱や一部野菜につきましては、本年の西日本を中心とした豪雨災害、道内産地での不作傾向から品薄感が強まり高値となっております。明暗を分ける結果となっております。

甜菜に付きましては、播種以降概ね順調に推移した事により収量・糖分とも平年作となりました。

一方、畜産部門にありましては、肉用牛の高値取引に支えられておりますが、導入価格の高騰などによる影響が今後の経営の不安要素ともなっております。

酪農家戸数の減少傾向は全道的にも進み当町においても残念ながら取扱乳量は、予期せぬ日高東部地震の全道停電による廃棄処分も加わり、計画未達の見込みとなり今後の増産体制に課題を残す事となりました。加えて、雨天と曇天により粗飼料の生育不調と一番草

収穫遅れによる品質低下など、次年度に及ぶ影響が懸念される事態ともなっております。粗飼料確保に向けしっかりと計画し、次年度の影響を極力避ける取組みを行いたいと思っております。

異常気象と言われる昨今の営農は、本年も組合員皆様の心労となつていと推測され、日々の組合員皆様の営農努力・ご苦労に敬意を表したいと思います。

農業・農政問題に目を向ければ、TPP交渉はアメリカが離脱し11ヶ国の枠組みの中で進み、参加各国の6ヶ国が国内手続きを完了し12月30日に発

効され、今後日米間の2国間で新たな日米物品貿易協定(TAG)の協議が予定されていますが、その議論の行方不安を残す状況下にあります。

又、本年11月には第29回J A北海道大会が開催され、前回大会の将来ビジョンや基本目標を踏まえた中で、重要性が一段と増す「協同組合の価値と実践」を新たな決議事項とし、J Aグループ全体で課題を共有して取組み、農業所得の増大・多様な担い手の確保育成、更には時代に即した協同組合の価値の創造、そして前回に引き続き550万人サポーター作りを議題として採択されました。

特に、時代に即した協同組合に関しては、「伝統的な協同組合」から「新たな協同組合」と言う事で世代交代が急速に進展している中、多様な価値観やニーズを包含できる結集軸として協同組合の創造を追求するとしております。

「地域より選ばれる農業・農協の構築を目指して」

現在当農協は、次期第9次の農業振興計画・中期経営計画に取組み「輝く津別農業を目指して」をキーワードにし、総合サポート事業を母体に、将来の経営面積増による労働力の不足と、農業機械・施設等の過度な投資を防ぎ、家族経営を基本に持続的に発展し、ゆとりのある農村社会の形成を目指し、次世代の農業の担い手である組合員が安心して営農し、地域のなかで自分

ひとりだけではなく、皆で生きていくと言うサポート体制の整備を目指しております。

当農協はこれからも、地域住民や農業農村の価値観を共有できる人達との繋がりの中で、豊かさ誇りを実感できる「持続可能な津別農業」の実現に向け、地域より選ばれる農業・農協の構築、その為の多様な価値観、ニーズを取入れた協同組合理念に基づいた事業運営を目指して行きたいと思っておりますし、そのことがJ Aの新たな時代に即した価値観に基づくすべての満足度の向上に繋がると思っております。

70年の歴史を歩んできた当農協は、豊かな農業経営と地域の中で安心して暮らせる、そして地域社会の中で果たす役割に報える事が出来る、そのような視点で平成から新しい元号となる農協71年目が新たなステップのスタート年となればと思えます。

本年も組合員皆様のご家族がご健勝で活躍され、農作業事故など無く天候にも恵まれて豊穰の出来秋を喜び合える事が出来ます様ご祈念申し上げますと共に、役職員一丸となって皆様の負託に応えられるよう努力していく事をお誓い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

代表理事組合長	山 下 邦 昭
常務理事	宮 川 義 昭
職務代行理事	佐 野 成 昭
理事(総務常任委員長)	金 一 和 美
理事(経済常任委員長)	真 鍋 英 二
理事	石 川 賢 一
理事	安 部 賢 一
理事	池 田 幸 弘
理事	岡 本 幸 弘
代表監事	下 川 貴 弘
監 事	長 瀬 信 一
監 事	十 河 信 誠
総務部長	中 西 友 幸
金融部長	稲 部 隆 幸
経済部長	久 保 玲 児

平成31年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会 会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、7月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震により尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やJAグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、JAグループ北海道を挙げて、1日も早い、復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度も概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところです。

国際貿易交渉については、9月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」(TAG)の交渉開始に合意したことが発表されました。今後、TAG交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回JA北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むとともに、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆さんのご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この3年間の実践期間のうち、2019年5月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、2021年3月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、JAグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、「力強い農業」と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けて、JAグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めてまいりますと考えております。結びになりますますが、今年の干支は己亥(つちのとい)です。

亥には、「無病息災」や「安定した状態」で始動を待つ「準備期間」の意味があるとのことであり、今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦労が報われる実り多い豊穡の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

第十二回理事会報告

開催日 12月21日

報告事項

- ①平成30年11月末財務状況について
- ②共計品の本精算について
- ③平成30年度経営所得安定対策に係る仮渡金の支払実績について
- ④農業共済金の支払見込について
- ⑤農業振興基金の運用状況について
- ⑥融資実行状況の報告について
- ⑦平成30年度クミカン清算状況について
- ⑧各作物の状況及び生産者団体の活動状況について
- ⑨各課報告事項

付議事項

- 議案第1号 自治監査結果について
- 議案第2号 固定資産取得他について
- 議案第3号 補助事業申請に伴う発電機の導入について
- 議案第4号 監事監査規程の改定について
- 議案第5号 共済規程の一部変更について
- 議案第6号 利益相反取引について

協議事項

- ①地区懇談会の意見集約と対応について
- ②平成31年度基本方針並びに部門別重点方針について
- ③平成31年1～4月主要行事日程について
- ④オホーツクJA非常勤役員研修会について
- ⑤役員選任制度検討委員会の答申内容について
- ⑥JA事務所建設について
- ⑦第9次中期経営計画について

食育を担うJAつべつに感謝



津別町長 佐藤 多一

新年明けましておめでとうございます。昨年は暖冬と言われていましたが、ここに来てすっかり雪景色となり、寒さも一段と増してきたところです。農業者の皆様におかれましては、前年に比べ良いでき秋ではなかったと聞いていますが、いま昨年を振り返り、そして今年1年のことを思い、平成31年の新春をお迎えになったことと思います。

さて、JAつべつの広報紙『北の農食家』2018年10月号の表紙を飾ったのは、「アソビバ！つべつ」の人参・馬鈴薯の収穫の様子でした。「アソビバ！つべつ」は、JAつべつ青年部と町の社会教育グループが連携し、町内の小学生を対象に農業体験を行なっているものです。毎年教育委員会では、「津別町教育委員会点検・評価報告書」を作成していますが、この件に関しては、「外であり遊びではなくた又は遊べなくなった子どもたちにとって、様々な体験事業は身体的・精神的に大きな刺激を与えている」とその成果を認めています。

昨年は、子どもたちと一緒に6月に人参と馬鈴薯を植え、秋に収穫し、料理教室を行っています。命をいただくことの意味を学んだのではないでしょうか。当麻町では、300名を超える子どもも

ちに広い水田を用意し、田植えから収穫までを行い、そのお米は学校給食で使っていると町長から聞いています。平成17年6月に「食育基本法」が制定され、食べることは生きることであり、安全な食べ物を選択し、農業との関わりを理解することを目指しています。津別町において、このような機会を提供していただいているJAつべつ青年部の皆さんに感謝したいと思います。また、地元の高校生やグリーンツーリズムで道外からやってくる学生たちに対しても同様の対応を行なっている農家の皆さんに敬意を表したいと思います。

また、実際に工事が始まり3年が過ぎた国営農地再編整備事業につきましては、平成36年度までの事業期間の中で、今年が最も事業量の多い年になるのではと予想されているところです。予算の確保については、これまでと同様、代議士や関係機関とともに全力をあげて取り組んでまいります。さらに、この事業と並行して東岡を皮切りに道営事業を実施することとしたところです。農業基盤が整備されることにより生産力はますます増大するものと思われまます。第1次産業の振興は津別町にとって重要な柱であり、町としても可能な限り支援を行う考えです。

今年のJAの総会後は、いよいよ新たな事務所の新設に取り掛かると聞いています。先日のJA組合員交流会の会場において、新事務所のイメージ図が大きく映し出されていました。立派な事務所でした。この建物だけでも町の様子が変わるのではと実感させられたところ。町の複合庁舎と消防庁舎も雪が降るころには、追っかけ建設が始まるものと思いますが、いずれの建物も完成の暁には順次取り壊しを行い、そこにはまた新たな建物が建設される予定となっています。

来年は、大正8年に当時の美幌村から分村して津別村となり、百年の記念すべき年を迎えます。この間、先人の多大な

年頭のご挨拶



網走農業改良普及センター 美幌支所 支所長

前田 雅稔

新年あけましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた平成31年の新春をご家族でお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より普及センターの活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、融雪期は平年より13日早く、耕起盛期も6日早く、好天により春まき小麦の種、ばれいしょの植付けは平年並、たまねぎ・てんさい

力により、津別町は現在の姿になっていますが、いま時を経て、その姿を再び変える時期が到来してきたところです。この町に住む老若男女の方々、さらに深い愛着を持って暮らしていける町を、そして首都圏から津別町の魅力に惹かれて移住してくる町を、町民の皆さんと楽しみながらつくり上げていきたいと思っております。

結びに、昨年は津別消防署に対する救急車の寄贈にご尽力をいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、平成最後の年となる今年が豊作の年になりますようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

の移植作業は平年より早く進みました。豆類のは種作業も平年並でしたが、6月中旬の低温と寡照、降雨により初期生育は停滞しました。

7月上・中旬は大雨、低温、寡照、下旬には高温・多照となりましたが、8月上・中旬の低温・多雨により春まき小麦は穂発芽が発生、豆類は開花・成熟期が遅れました。

9月6日に発生した停電では、搾乳・集荷等に影響が及びました。心からお見

舞いを申し上げます。

作柄については、小麦は千粒重が軽く収量は平年をやや下回り、ばれいしよの収量は平年より低く、でん粉価は平年をやや上回りました。大豆は百粒重が軽く、小豆は着莢数が少なく、菜豆は未成熟粒が多く収量は下回りました。てんさいは根重、糖分は平年を上回り、たまねぎは規格内収量がやや下回りました。牧草は降雨による一番草の収穫遅れにより収量は確保されたものの、栄養価は低く、飼料用とうもろこしも、低温による生育、登熟の遅れにより収量は下回りました。

畜産については、一番草の品質、飼料用とうもろこしの確保量や栄養価に懸念があり、給与飼料メニューや量の調整が必要になる状況が出てきておりますが、出荷乳量は概ね前年度並みで推移しております。

各作物総じて、収量・品質の低下を最小限に抑えたのは、皆さん、各生産組織の基本技術の励行と気象災害への対応、備えの賜と敬意を表します。

また、津別においては、酪農協業法人の設立や「ふるさと塾」、農業法人会、有機酪農研究会、スマート農業研究会、TMRセンター、津別町農業労働力支援協議会、広域てん菜戦略推進コンソーシアム、GAP取得等の活動に支援をさせて頂いておりますが、平成30年度は、有機酪農研究会の中で、一般社団法人日本草地畜産種子協会が主催する平成30年度全国自給飼料生産コンクールに出品されたところです。

普及センターは、今後とも津別の農業の維持・発展のため、生産性の向上はもとより、「人が残り地域が残る活動」、

担い手の育成・確保、重要病害虫の侵入防止など、皆さん、関係機関と協働して引き続き支援して参ります。

平成30年は12月6日まで積雪がなく、秋まき小麦は生育が進み、莖数が多い状況で越冬を迎えます。起生期の追肥に

新年のご挨拶



網走川流域農業・漁業連携推進協議会
会長

新谷 哲也

津別町農業協同組合の組合員の皆様、役職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平素より、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）の運営に関しましてご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

津別町農業協同組合と網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合は平成十九年以来、産業と流域環境について、継続して話し合いを行い、農業と漁業が連携して流域の環境を保全していくと、平成二十二年十一月二十五日共同宣言を致しました。農業と漁業は、網走川流域の中心の産業であり、流域の環境保全に向けた取り組みを進めそのことにより産業の持続性を強固にし、もっと「美味しい」「安全・安心」な食糧生産を目指し、網走川流域の繋がりを意識して、お互いの産業を尊重・理解し、相互に多面的支援を行い、豊かな自然環境と共存しながら

当たっては、莖数に基づいた適量追肥が重要となります。

結びとなりますが、本年が輝かしい年となるとともに、皆様の益々のご多幸とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

持続的に発展することを目的としたものです。

この共同宣言の内容を実現するために、網走川流域農業・漁業連携推進協議会（だいちとうみの会）を、平成二十三年五月二十日に設立いたしました。協議会事業として平成三十年は「大地と海をつなぐ植樹」「津別小学校での「ほたて出前授業」を実施。又、網走市の小学生を対象に「農業・酪農出前授業」を実施しております。6次化事業については、三協同組合女性部が交流会を実施しておりますが、これにより女性部の交流が一層活発になり、新しい事業に展開する事を期待しているところです。これらの様々な事業を通じて、網走川流域に有機栽培や減農薬栽培を始めとした流域負荷低減を実践されている農業者の皆さんや、負荷低減の取り組みを実践されている企業、生態系の維持保全を行っている団体など、たくさんの方々との出会いがありました。

こうした地道な取り組みにより、網走川流域の環境保全活動に関わる多くの方々がいることを知り、それぞれが情報意見交換などができる場の必要性を強く感じました。

そのようなことから、網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引き継ぐことのできる地域協働による人・産業・自然が共生する流域社会を目指すために、流域住民をはじめとした、網走川流域に関わる各種団体、企業、行政機関、大学、研究機関が交流・連携・情報交換ができる機会をつくり、人的ネットワークを築き、網走川流域の連携の輪を更に広げるため「だいちとうみの会」とは別組織となります「網走川流域の会」を平成二十七年に設立し、平成三十年四月二十日に第三回通常総会を津別町中央公民館にて開催し、同日北海道水産林務部林務局林業木材課長 工藤森生氏から「みずぎわの緩衝林造成を考える」と題してご講演をいただき又、当会顧問・アドバイザーであります高知大学名誉教授 大野 晃氏から「私の限界集落三十年の歩み」と題してご講演をしていただき、シンポジウムを開催したところであります。

又、網走川流域で有機農業や減農薬など河川の環境負荷低減につながる取組を実践している個人や団体組織に対して、網走漁業協同組合と西網走漁業協同組合から感謝と敬意を表す目的として、「漁業者からの応援証」を（株）宮田建設、おおぞら三味（株）、（株）ウエニシへ贈呈を致しました。漁業者からの応援証については、これまで十一団体に贈呈をしておりますが、平成二十九年十二月七

日に設立された「網走漁協・西網走漁協からの応援証受取者連携協議会」（応援証受取者の会・山田昭夫会長）の事業として、本年度は、会員活動状況確認及び研修会を実施し、会員相互の連携・交流・情報交換が出来る機会をつくる活動が行われており、この応援証が少しでも農産物の消費拡大又、網走川流域の環境保全のお役に立てればと思っております。我々の生業であります農業・漁業などの一次産業を取り巻く情勢については、新たな貿易自由化に向けた消流対策に加え、担い手の育成や競争力強化への取組み、未だ解決の目途が立っていない放射能汚染水処理問題と輸出の消流への影響等、各種課題に的確に対処していくことが求められています。又、近年の異常気象の影響など予断を許さない状況にあります。

網走川流域の豊かな自然を大切にし、安全・安心な農畜産物、水産物を消費者の皆様が届けることが我々生産者の使命だと思っております。

津別町農業協同組合の皆様とこれらの活動に当初より関わって来ました私と清野氏が、昨年三月に網走、西網走漁業協同組合の組合長となりました。

農業者、漁業者が連携するという全国でも珍しいこの取り組みの思いを、たくさんの方に伝え理解をいただけるよう、これからもより一層皆様と一緒に頑張つてまいりたいと思っております。

結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして良い年でありますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



JA情報館

津別中学2年生農業体験報告会

津別中学校の2年生は、畑作班と酪農班に分かれて一年を通して農業体験が行われ総仕上げとなる報告会が同校体育館で、受入いただいた組合員、JAが参加し12月13日に開催されました。

農業実習は春から秋まで3回、その他に座学と収穫物を使った調理実習が行われました。

パワーポイントを使った報告は、農作業や搾乳実習の感想に加え、「後継者問題」「人手不足」「地球温暖化」「震災について」「外国人労働者」「輸入品について」などが上げられ、解決策では「農業体験や津別町の良さをSNSやYouTubeで配信し多くの人に知ってもらう。」「研修生を募集して、農業や酪農を知ってもらい興味を持ってもらう。」「機械化を進め人手不足を解消する。」「暑さに強い品種の物を作る。」「日本人と外国人は考え方が違い、新しい考え方が出来るのではないか。」と言った意見がありました。農業を体験し、「大変な作業もあったが、多くの事を学びとても充実していた。」「受入農家さんからありがたい言葉をもらい、自分も役に立てた事が嬉しかった。」「ごはんを食べる時に作った人を思うようになった。」「暑いなかの農作業は大変だったけど受入農家さんのサポートで楽しく作業することが出来た。」等感謝の言葉がのべられました。



受入農家を代表し野宮裕二さんは、「将来を考える時に選択肢の一つに農業も入れていただき選んでもらえればありがたいです。

食べることは大切な事です。農業は、自然を相手にしているのでうまくいかない時もあるが達成感が持てる仕事です。

元気で、健康に勉強に遊びに頑張つて下さい。」と感想をいただき報告会は終了しました。

甜菜コントラ事業



平成31年産から本格稼働となるてん菜コントラ事業について、専任オペレーターによるドイツホルマー社での研修を実施してきました。(11/26-28)

座学1日、実技1日と津別での収穫体験を踏まえ応用的な内容での研修となりました。



ホルマー社顧客であるラインランドウエストMR内でトレーニングを実施、テラドス7台を所有し、8,000t/日を製糖工場に供給収穫時間は24Hが基本だが当然休憩等がある。

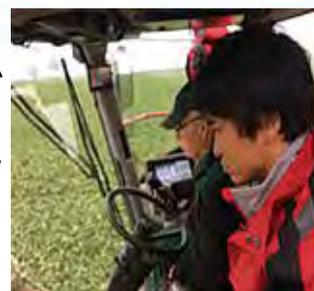
修理等は、MRの担当者が基本的に対応。



朝9時から午後6時までT4-30、40 2台に分かれてトレーニングを実施。

新システム イージーヘルプ・ドイツから直接PCでテラドスに連動(サービスマン用)

スマートターン(自動旋回機能 枕最低1.8M)



参加したオペレーターの感想

・遠藤 進氏

ホルマー社の研修を終えて身に付いたことは、効率よく作業をすることです。掘り取る順番から機械トラブルまで徹底した効率重視の作業のやり方や気構えを学びました。それを日本(津別)でも実践出来る様に頑張りたいと思います。

最後に、ドイツでビートを掘るといふ大変貴重な経験をさせて頂いたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。

・新谷 和典氏

座学では、判らなかつたことを直接映像を見せてもらいながら教えてもらい判りやすかつた。ドイツの圃場で掘らせてもらつたり、オペレーターの乗り方を間近で見せてもらつたりと貴重な経験をさせてもらいました。

テラドスは、慣れないと掘りこぼしが多くなつたり、細かい調整が瞬時に出来なかつたりするので、改めて経験をしっかりと積まないといけない機械だなと思ひました。

参加させていただき厚くお礼申し上げます。

・柏木 守氏

今回の研修を通じて学んだことが、2つあります。1つ目は、現地(ドイツ)オペレーターから直接指導され技術が向上したこと。

2つ目は、ヨーロッパ諸国の仕事の仕方、文化に触れたことで仕事に対する視野が広がったことです。

これらを生かし微力ながらてん菜事業に尽力したいと思ひます。最後に本研修に行かせて頂いた関係者の皆様方に感謝しております。ありがとうございました。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的に伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容は

WEBSITEをご覧ください。



JA北海道中央会

次世代の大規模農業経営者の育成を目的とした「北海道アグリフードプロジェクト・アカデミー（農業経営塾）」の第3回講座が、受講生10名の参加のもと、11月29日・30日の両日、札幌市内で開催されました。



今回は「人づくり・組織づくり」をテーマに組織開発、労務管理の基礎知識を専門家から学ぶとともに先進事例の紹介もあり、研修のまとめとして、受講生各自が「夢の農業経営」を実現するための「働き方改革実行宣言」を行いました。



JA北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として、今年で8回目となる「農業経営フォーラム」を札幌で開催しました。当日は、(有)トップリバーの嶋崎代表取締役「トップリバー一流の人材育成」を、志ネットワークの上甲代表に「いま経営者に求められるもの」を、松下幸之助の人づくりをテーマに講演頂きました。参加者からは、「人材育成の重要性を理解できた」、「人としてあるべき姿を教わった」など好評を頂きました。

11月に農業経営者支援の一環として、今年で8回目となる「農業経営フォーラム」を札幌で開催しました。当日は、(有)トップリバーの嶋崎代表取締役「トップリバー一流の人材育成」を、志ネットワークの上甲代表に「いま経営者に求められるもの」を、松下幸之助の人づくりをテーマに講演頂きました。参加者からは、「人材育成の重要性を理解できた」、「人としてあるべき姿を教わった」など好評を頂きました。



ホクレン

全道のホクレンSSで展開した「2018ラブ&ハートチャリティキャンペーン」に寄せられた募金と、売り上げの一部を合算した総額300万円を、北海道社会福祉協議会へ寄託しました。当キャンペーンは、ホクレンの社会貢献活動「HOKUREN SEEDS PROJECT」の一環として実施しており、道内の児童保育施設約810箇所に、絵本などの購入費用として使用いただく事となっております。



JA共済連北海道

12月24日(月)から1月20日(日)まで、さっぽろ地下歩行空間に「アンパンマン×こども共済」の巨大壁面広告



(全長14.5m)を掲出します(写真はイメージです)。一般のママ達が選ぶ「マザーズセレクション大賞」を受賞した「こども共済」を年末・年始にかけ全道から札幌へ訪れる方々へPRいたします。札幌にお越しの際は、ぜひ地下歩行空間をご覧ください。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様のため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非一読ください。



年末年始の業務体制(H30～H31)

	平成30年 12/28(金)	12/29(土)	12/30(日)	12/31(月)	平成31年 1/1(火)元旦	1/2(水)	1/3(木)	1/4(金)	1/5(土)	1/6(日)	1/7(月)
事務所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常
活汲事業所	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常
貯金店舗	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	休業	休業	平常
堆肥製造施設	平常	休業	休業	休業	休業	休業	休業	平常	休業	休業	平常
給油所	平常	平常	平常	平常 注)③	休業	休業	平常 注)③	平常	平常	平常	平常
(有)だいち (TMRセンター)	平常	平常	平常	休業	休業	休業	休業	平常	平常	平常	平常

備考

- ①仕事納めは12月28日とします。(事務所・活汲事業所)
- ②仕事始め1月7日とします。(事務所・活汲事業所) 貯金店舗については1月4日とします。
- ③給油所は12月31日と1月3日(午前7時30分～午後5時)までの営業とし、元旦・1月2日は休業とします。4日から平常営業です。

1月の主な行事

1月 13日	日		28日	月	総務委員会
14日	月	成人の日	29日	火	理事会
15日	火	営農組合総会	30日	水	農政対策総会
16日	水	肥料農薬講習会	31日	木	棚卸監査
17日	木		2月 1日	金	経営会議
18日	金	役員報酬等審議会 企画会議	2日	土	
19日	土		3日	日	甜菜4町村道外研修 ~6日
20日	日		4日	月	
21日	月	オホーツクJA役員研修 ~22日	5日	火	
22日	火	総務委員会 小麦栽培技術講習会	6日	水	肉牛振興会総会
23日	水	経済委員会	7日	木	
24日	木		8日	金	
25日	金		9日	土	
26日	土		10日	日	
27日	日		11日	月	建国記念日
			12日	火	
			13日	水	

発行 津別町農業協同組合 〒092-0231 北海道網走郡津別町字大通33番地
☎0152-76-3322 FAX0152-76-3594 貯金共済直通電話 0152-77-3170
印刷 有限会社 サンケイプリント社

<http://www.jatsubetsu.or.jp>